

## 交通機関ガイドブック

神戸大学経営学部  
笠松啓吾

遠方から訪れる人々にとって苦勞するのは交通機関の利用についてである。神戸は阪神、阪急、JR、地下鉄など様々な鉄道があり、またバスの系統も非常に多い。そこで私は神戸市周辺の交通機関の情報についてまとめたガイドブックを作ることを提案する。

最近では多くの出版社が旅行者向けのガイドブックを出版し本屋で発売している。ただその内容は主要な街の飲食店などの施設の紹介が中心となっており、アクセスも書いてはいるが分かりにくい場合が多い。また旅行者向けであることから仕事で来訪した人にとっては分かりにくく、スマートフォンで調べるしか方法がない。また旅行者にとって**交通機関で迷うと大きな時間のロスとなって見て回る予定をキャンセルしないといけない状況に陥る可能性もある**。この状況は一般的には市に対して悪い印象を持たれてしまう。神戸市は大きなテーマパークはないものの美しい街並みがあり、また北は六甲山で南は海といったように良いロケーションになっている。この土地関係は方角がすぐに分かることから街で迷うことが少ないと思われる。また大阪や東京に比べると、ほとんどの路線が並行に並んでいてわかりやすくなっている。この環境に交通機関についての丁寧な案内があれば、迷うといった人為的なミスによる時間のロスもなく予定通りの来訪ができることから、神戸の良いところをたくさん見てもらうことができ、良い来訪だったというポジティブな印象を与えることができる。**スムーズな移動は旅行に来た人にも仕事で訪れた人にもそれ自体で好印象を与えることができる**だろう。またリピーターをより増やすためにこのガイドブックがもう一度来たいときに使えるものにしたいと考えている。神戸から帰ってからも**見て楽しくなるようなガイドブック**にして、次来る時のきっかけになるようなものが理想である。このように交通機関ガイドブックで、来訪客に優しい街として印象づけるとリピーターも増えるに違いない。

本の内容についてだが、**駅ごとにスペースを設け**そこに駅の説明や周辺施設の案内などを載せたい。この時に絶対に載せてほしいのは三つあり、一つ目は**この駅は普通電車や快速電車などのどの電車が停車するのか**という部分だ。これは路線図だけではわからない部分であり、電車の中やホームに書かれてあることが多いが、間違いに気づいても修正がきかないということになりがちだからである。二つ目は一般的な乗換案内である。この部分は前もってスマートフォン等で調べてきて、何時何分にこの駅に着いて何分後の電車に乗るといったことは分かっている人が多いかもしれない。ただ逆に考えるとお年寄りや機械に疎い

人などそれらを調べる方法を持っていない人たちにとってみれば非常に分かりにくいと思われる。そこでガイドブックの中には**駅ごとのスペース以外のところで料金表や路線図**などもできる限り詳しく載せたいと考えている。三つ目はそれぞれのスペースに入りきらないであろう駅構内の図や時刻表をQRコードで読み取れるようにするということである。スマートフォンなどの乗り換え案内で調べてきた旅行者にとってみれば、「〇〇駅から△△駅に乗り換え」や「××線から□□線に乗り換え」といったワードは場所を把握し切れていないことから困る原因の一つである。また大きい駅での乗り換えの時、駅の中にある案内を見ても案内の数が多かったり、探している案内がなかったりと方向感覚もつかみにくいのも重なって迷って焦りがちになる。そういった時のために駅構内また周辺の地図や時間がずれたときのための時刻表は必要だと考えられる。また駅ごとにスペースを設けると前述したが、駅の規模によってスペースの大きさを変えたいと思う。特に三宮、元町、ハーバーランドなどの観光客が訪れやすい場所は特集を組んでおすすめスポットなどを載せるのがよい。また**それぞれの駅の名前の由来や駅そのものの特徴など、他のガイドブックには載っていないような豆知識**のようなものも載せるなどして、前述したように帰ってから楽しめるものにする。また近頃はスマートフォンで乗り換え案内を簡単調べることができるが、**地下鉄では使えなかったり、つながりが悪くイライラしたり、充電がなくなったりして満足いかない部分がある**と思われる。また**出発地と到着地の名前しか分からないため途中の駅の知識などの広がりも少ない**。あえて紙媒体のガイドブックとしてまとめることによって、そのような心配はなく交通機関の利用もスムーズにすることができ、神戸の街に対する印象もよいものになるだろう。

ガイドブックの配布場所だが、神戸の中心地である三宮駅と新幹線が通る新神戸駅の改札を出てすぐのところと神戸空港にする。海外からの来訪者もおそらく最初に訪れるであろう駅にあるガイドブックなら手をとるはずである。もちろんガイドブックは英語、韓国語、中国語などでも表記しておく。あと配布を無料にするか有料にするかだが、今のところ**有料**にする予定である。理由としては、帰ってからも見て楽しめるものにしたいというコンセプトを考えると、帰る前に捨ててしまう、失くしてしまう、といったことをされてしまうと内容をどれだけ工夫したところで意味がない。せつかくの紙媒体のガイドブックであるので、**旅行者からある程度価値があるものとしての理解を得たい**。そこで有料にして価値を付与しようと考えた、といったものである。自分でお金を出して手に入れたものはなかなか捨てづらいというのが普通であり、またそれが旅行先で買ったものとなるとより捨てるのに躊躇するものである。料金設定としては200円くらいにして手に取りやすい価格にする。**このガイドブックの目的はガイドブック自体の収益ではなく、ガイドブックがもたらす効果による収益であるため、価**

**格はできる限り低く、ただ価値がないとは思われないようにするくらいにする。**旅行先で買うものであることから、一般的に金銭感覚がはっきりしていない旅行者の人たちの中には低い価格にしておけばとりあえず買ってみるといった人が多くいると考えられる。あと、神戸市が作ったものとして「公式」という言葉を使えば、より強いインパクトを与えることができ、低い価格設定との相乗効果で手にとってもらいやすくなることだろう。またこの効果には、旅行者がすでにガイドブックを持っていたとしても、もう一つ買おうかなと思わせるというものもある。

交通機関のガイドブックというものは地元の人には疎遠でも旅行者にとってみれば旅行中でも役に立ち、帰った後も無駄にはならないものである。神戸市に対して旅行中に好印象を持ってもらい、帰った後にもそれを思い出してもらえるためには、有効な手段であると私は考える。